

令和7年度第1回宇都宮市学校運営協議会の試行的導入事業に係る検討会議 会議録

■ **日 時** 令和7年9月29日（月）10時00分～11時30分

■ **会 場** 宇都宮市役所教育委員室（本庁舎13階）

■ **出席者**

委 員： 上原 秀一 会長，福田 治久 副会長，石井 大一朗 委員，
 釦持 幸子 委員，岩崎 充延 委員，斉藤 智子 委員，
 江田 孝裕 委員，山本 和紀 委員，飯沼 貞臣 委員，
 金田 操 委員，石川 和弘 委員，加藤 悦宏 委員，
 河内 哲也 委員

事務局： 教育委員会事務局次長，学校教育課長，生涯学習課長，学校教育課指
 導G係長，学校教育課指導G担当，生涯学習課家庭教育・地域人材G
 係長，生涯学習課家庭教育・地域人材G担当

■ **会議経過**

1 開会

2 教育委員会事務局次長あいさつ

3 委員紹介

4 「宇都宮市学校運営協議会の試行的導入事業に係る検討会議」の役割について 〔資料〕

5 議事

(1) 会長，副会長の選出について

委員の互選により，会長には 上原 秀一 委員，副会長には 福田 治久 委員
を選出した。

(2) R6第2回検討会議における主な意見と対応の方向性について〔資料〕

(3) モデル校における学校運営協議会の状況について〔資料〕

報告事項（要旨）

副 会 長：学校運営協議会については，まず，理解することが第一だと考えてお
り，コミュニティ・スクール（以下，「CS」とする）モデル事業の説明などにより，モデル校での理解は深まっていると考えている。実際に，各モデル校の学校運営協議会に参観した印象として，学校運営協議会委員（以下，「協議会委員」とする）の理解度などについて，どのように受け止めているか。

事 務 局：協議会委員には，今までの魅力ある学校づくり地域協議会（以下，「魅
（学校教育課）力協」とする）の取組をうまく生かせば，大きく変わるところがなく活動できると認識されたと捉えている。協議会委員として，新たにや

ることが増えてしまうのではないかと心配している方もおられると思うので、今後も、市教委担当者が学校運営協議会に参加しながら、丁寧に説明を繰り返し、理解促進していく必要がある。

委員：今回、各モデル校において協議会委員として委嘱した方々は、これまでの魅力協の会議における委員とほぼ同じメンバーだったのか、今回、新たに定めた協議会委員選出の理念や目的に則って、何割かは、異なる方を選ぶことができたのか、協議会委員の構成について伺う。

事務局（学校教育課）：協議会委員の構成は、ほぼ、これまでの魅力協の委員が継続しているが、学校によっては、CSモデル事業を開始するにあたって、新たな方を推薦したり、PTA会長や自治会長など代表者の交代等に伴う入れ替えがあったり、若干名の変更があった。

委員：学校運営協議会の導入により、魅力協でやることは、増えたのか。

事務局（学校教育課）：資料にあるとおり、3つの機能が増えている。モデル校における第1回の運営協議会においては、特に、学校経営方針の「承認」が増えた。また、学校に対しては、これまで同様、魅力協の活動について、ホームページ等で広く公開することを依頼している。

委員：4つのモデル校では、4月、5月の第1回の会議を、学校運営協議会という名称で実施しているのか。学校運営協議会委員という認識のもと活動しているのか。

事務局（学校教育課）：第1回の会議で配付された資料では、これまでどおり、「第1回地域協議会」や「第1回魅力協」という名称を継続して用いているが、次第等には「第1回学校運営協議会」を併記している状況である。また、学校運営協議会委員として委嘱している。

委員：モデル校以外の学校及び保護者については、学校運営協議会について認識が十分でないように感じている。特に、中学校においては、部活動の地域展開への関心が大きいことなどがあるため、全市的に展開する場合には、モデル校以外にも丁寧に説明などをしていく必要がある。

事務局（学校教育課）：今までの魅力協の活動は、本市の保護者、地域の方々にとって、影響力のある取組であるため、学校運営協議会へ移行する場合には、モデル校以外にも丁寧に説明していく。

副会長：文部科学省は、名称が「学校運営協議会」でなければならないとしているのか。

事務局（学校教育課）：文部科学省は、学校運営協議会を設置する学校を、コミュニティ・スクールとしている。しかし、本市独自の魅力協という名称を残した会議にできるかなどについては、引き続き、検討していく。

委員：学校運営協議会を導入するということになったら、今までの魅力協との関係性はどうなるのか、混在している状態も有り得るのか。例えば、学校運営協議会、魅力協がそれぞれ年数回実施されるのか。会議のメンバーは同じになるのか。また、承認を得るという工程が増えたということだが、これまでの魅力協の活性化や改善などで済むものなのか。

事務局（学校教育課）：学校運営協議会と魅力協が並列して開催される形となる。一方、魅力協の委員は、無償のボランティアだが、協議会委員には、報酬の支払いが発生するとともに、特別職としての非常勤の職員になるなど立場が大きく異なる。その他の部分に関しては、本市では、国のCSの制度と同じやり方を既に実行してきたが、新たに教育委員会まで意見を

述べることができるよう仕組みに整えた。学校運営協議会を導入する場合でも、今の魅力協を生かしながら対応できると考えている。

(4) モデル校対象アンケートについて〔資料〕 協議事項（要旨）

- 委員：アンケート中の「学校運営協議会」の表記について、今後実施するアンケートについては、昨年度のアンケート同様「魅力協」と表記し、表現を変えず、同じ質問項目のアンケートをもう1回実施することで、導入前後の変化を比較した方がよい。
- 委員：教職員のアンケート結果について、魅力協で話し合った内容への認識が低く、特に、20代、30代の教職員の認識が十分でないことは、残念に感じる。同じ質問項目のアンケートをもう1回実施するべきと考える。
- 委員：「学校運営協議会」としてアンケートを行うことは、よいと考えている。学校運営協議会としての会議に変わったことをPRすることが大切である。学校運営協議会として求められる役割を意識しながら日頃の活動を進めることができるよう示した方がよい。
- 委員：児童生徒を対象とするアンケートについて、「お年寄りに感謝の気持ちをもっている」という質問項目があるが、「お年寄り」という表現は、子どもにとってどういう立場の方が想定されるのか、また、感謝の気持ちについて調査したいのであれば、お年寄りに限定されてしまっている。
- 事務局：20代、30代の教職員について、魅力協への理解度が低い結果となっており、勤務年数が少ないほど、魅力協の活動に対する理解度が低いという傾向も見られた。新たに異動した教職員にも魅力協の理解が深まるようにしていきたい。また、宇都宮市立小中学校で毎年実施しているアンケートを検証の参考にしていくが、「感謝の気持ち」や「お年寄り」という表現を使っているアンケートは、魅力協の活動や委員を指しているものではなく、魅力協や学校運営協議会の取組の効果と直接的な関連を示すことが難しい部分もあるため、どの項目を参考指標としていくかについては、検討していきたい。
- 委員：アンケート結果を踏まえて、課題を明らかにして、情報発信の必要性を結論として示したことは、重要な視点だと考えている。今までも、魅力協は、ティッシュなどを作成・配布することなど、工夫しながら周知に努めてきた。今回、HP等で公表していくことで、魅力協の活動理解も更によくなっていくことが期待できる。
- 委員：20代、30代の教職員の回答状況が課題として挙げられているが、目の前の児童生徒のことを考え、指導や授業づくりなどに精一杯の状況がある。改善策としては、20代、30代の教職員を、協議会委員として推薦することなども考えられるが、新たな負担増につながらないよう配慮する必要もある。
- 委員：今回示されたアンケートからは、モデル校が、今、どんな状況なのか、詳しく把握することができる。今後実施されるアンケート案には、「承認」などの表現が加わっているが、更に、魅力協と学校運営協議会の違いが明らかになるような質問項目が入るとよい。かつて本市で、魅力協を導入する際には、「宇都宮版学校運営協議会」という表現から、スタートしたと認識している。承認や委員の身分などが変わることに

よる変化が明らかになるような調査を実施し，導入を検討する議論が深まっていくとよい。

委員：今後も，職員への会議内容の周知は必要である。学校による周知方法もデジタル化が進み，印刷物が減ったことにより，地域や家族間で話題を共有しにくくなっていることがあるかもしれないため，学校運営協議会，魅力協の会議や活動が広く理解されるような周知方法の工夫について検討しながら進めていくとよい。